

コウイカ

分類：十腕形類 コウイカ目 コウイカ科
学名：*Sepia esculenta*
英名：*Edible cuttlefish*

本州、四国、九州にかけて分布するが南日本に多い、触腕は長く延び先端が幅広くややふくらみ、ここにだけ吸盤がある。他のイカ類と異なりコウイカはこの触腕を第2腕と第3腕との間に格納出来るような機能をもっている。胴は楕円形で胴の両側の縁には幅の広い鰭がある。胴の背側には黒褐色の横紋があり下面はやや白っぽい背部には石灰質の殻があり、外套膜で被われ長円形で平たい、沿岸性の半底棲種で100m前後の海底附近に生息し海底の岩や海藻の株などにブドウのような黒い半透明の卵を産みつける。ヨーロッパコウイカ(モンゴウイカ) *S. officinalis* は地中海から南アフリカにかけて分布するが西アフリカ沿岸に多産する。



トラフコウイカ(アデンモンゴウ)
S. pharaonis



ヨーロッパコウイカ
(触腕が長すぎる)



トラフコウイカ



コウイカ(学名は誤記)



イバラカンザシ

分類：定在目カンザシゴカイ科(環形動物多毛虫綱)
学名：*Spirobranchus giganteus*
英名：*Plume worm*

相模湾以南の暖海の浅海底の造礁サンゴのハマサンゴ(*Porites sp*)等に自力で作った石灰質の管(棲管)の中に生息する。

頭部は小さく退化して、その周りに、花びらのような触手冠(鰓冠)が主軸を中心に螺旋形に取り囲み、呼吸をすると共にプランクトンを捕食する。鰓冠は赤、青、黄の原色、中間色、斑紋など、派手な色彩のため海中では良く目立つ外適に対しては陰影反応により鰓冠をすばやく引っ込め、棲管の蓋を閉じて身を隠す習性をもつ、血液はクロクロリンを含み緑色を呈する。

